

「共にめざす未来」 ～米国サマープログラム体験記～

高校一年 I・S

「理想の社会」とはどんな社会なのでしょう。皆が豊かで戦争もなく、楽しく暮らせる世界。話し合えばわかりあえる社会。限らない理想は広がりますが、最も根本的なことは居場所のある社会、「自分も参加している」と感じられる社会ではないでしょうか。私は日本で家族と一緒に過ごし、学校に通える生活を送れています。安全だしこれから社会に出ていくために少しの不安は抱えながらも楽しみに準備しています。けれど、世界のあちらこちらで、発展途上国、戦争を抱えている国ではもちろん、先進国の中にすら、貧しさや障害の有無やその他様々な理由で「安心できないでいる人々」、「社会に参加している気持ちを感じられないでいる人々」がいることをニュースや新聞でも沢山見聞きます。その最大の理由の一つは貧困だと言います。貧困はたんにお金がないというだけではありません。それは明白な幸福の欠如です。

貧困は栄養の不足、医療機関や教育への限られたアクセス、そして自由と所属の無い状態です。

貧困は明日のことについて考えることのできない状態でもあります。

貧困は社会からの疎外を意味します。貧しい人はまるで存在が無いかのように扱われます。自分たちの声を上げること出来ず、生活環境を良くするチャンスも失ってしまっています。

今年の夏のアメリカでの社会奉仕体験は私の小さな世界を押し広げてくれ、これから私たちはどのような未来を目指すべきなのか考えるきっかけを与えてくれました。社会的弱者と言われる人々のために私たちはどのようなことが出来るのか、体験を通して考えたことを、簡単ではありませんがまとめてみたいと思います。

誰もが積極的に社会参加出来る社会の実現に向けて、まず第一にすべき対応は、食糧が得られない人々に対して最低限の食糧（食事）を保証するシステムの構築です。例えば誰に対しても毎日無料で食事を提供するスープキッチンのようなシステムの導入です。私がボランティアに行った「**SOME**」(So Others Might Eat)は、政府や企業の支援金で運営されているアメリカ

最大規模のボランティア団体の一つですが、一日で1000人以上、年間で38万人以上の経済的に困難な状況にいる人に健康的な食事を提供しています。満足に食えることが出来て、はじめて社会生活を送ることが出来ると考える **SOME** のスタッフは、毎日一人でも多くの人に食事を提供することをモットーに活動しています。ホームレスの人から家はあっても食糧が十分でない人、そういう人たちを助けたいと思っている人までそこで食事をしたいすべての人に無料で食事を提供します。それに加え、私がボランティア活動に参加したもう一つの団体 “**City Orchard**” はやはり政府や企業の援助で活動している農園ですが、貧しい家庭に無料で野菜を届けることに特化した農園でこのアイデアはとても新鮮でした。作物の作り方に関しては普通の畑と何一つ変わりませんが、健康的な食生活について知識が無い人が大半を占める貧しい人々は野菜の重要性について知らない場合が多く、そのような人にも健康的な食糧を届けたいという、このような農園の取り組みがいかに大切な役割を果たしているかを私は活動を通して知りました。日本ではこのようなシステムが整っているケースが滅多になく、家の無い人はコンビニなどの残飯を食べたり、貧しい人はジャンクフードやお腹が一杯になりやすいものを手軽に買うことが主流ではないでしょうか。より良い活動をするには健康的な食事の保証が絶対に必要なのです。

第二に基礎教育の保証です。これは意外にも先進国でも取り組まなければならぬ課題なのです。例えばアメリカでも、生活が安定しないために基礎教育を受けないまま、ホームレスシエルトーに **end up** してしまう人が沢山いるそうです。そこで私はホームレスの人々や貧困に苦しむ人々に対する社会更生プログラムの充実を図る必要があると思います。私がボランティアに参加した **Father Mckenna Center** ではホームレスの人々が正しく社会復帰出来るように手厚いケアを提供しています。食事を用意する段階を越えて、医療サービスやシャワーで身ぎれいであること、その気持ちよさを維持することの大切さを体感してもらい、職業訓練などを通してホームレスの自立支援に携わっています。そこでの体験を少しまとめたいと思います。

Father Mckenna Center は100年以上の歴史を誇るホームレスシエルトーです。薄暗い建物の中に入るとすぐに何人かの男の人が気軽に

“Hi, welcome.”と声をかけてきました。ホームレスの人と挨拶を交わしたことの無かった私は最初、少々動揺してしまいました。何とか返事を返した後、Food pantryの手伝いをする事になった私には彼らに自ら話しかけなければならぬ場面が訪れます。野菜の担当だった私は順番が回ってきたホームレスの人に“Sir would you like some vegetables?”と聞き、指定された野菜を袋に詰めて渡すだけです。しかしこの作業が私には思いがけない壁でした。Food pantryでの手伝いのあとは昼食の配膳の手伝いです。そこでもちよつとした会話を交わします。“Sir, which do you prefer, fish or meat?”という具合です。ここでもまたもや小さな恐怖心が頭をもたげます。私は、いろいろな事情で食料や安全や仕事を得られない人々を助けたい、助けるための方法を学びたいと真剣な気持ちで参加したにも関わらず、本当に面と向かってホームレスの人と話をしたことが無かったため、見慣れない人々に対する不安が頭をもたげてしまったのです。外見や様子に左右されてしまうのです。けれども、そのあとの食事を経て、私の気持ちはとても大きく変化しました。全員がそろった後、いくつかのテーブルに分かれ同じ食事を頂くのですが、ホームレスの人もそうでない人も同じテーブルを囲みます。一緒にテーブルで隣に座ってアメリカの大統領選に関する話から日常生活におけることまで様々なことについていっぱい話しました。その場で唯一の外国人だった私の、日本に関する話も興味津々で聞いてくれます。話をしてみると、周りの色々なことに興味を持っている人も、相手に対する興味関心を素直に会話に反映させてくる人もいっぱいいました。ただ、その中には、日本について全く聞いたこともなくどんな国なのか想像すらできないと言っている人もいました。そこで私は初めて、教育がいかに人の人生を左右し、社会生活を送るうえで必要不可欠なのかを実感しました。皆がお互いに善意の興味を持ち、それを分かち合いたいと思うとき、最低限の共通の知識や理解が役に立つのです。そして自分とは違う知識や経験の持ち主から話を聞くチャンスがとても重要です。社会に参加するために、より良い、より深い人間関係を築くために基礎教育が絶対に役立つと思います。

ここでは、半年間、きちんとプログラムに参加し続けると必ず仕事を保証してくれる体制が整えられています。くじけず、面倒くさがらず毎日訓練に通

うことが肝要ですが、それだけの継続的努力は必ず仕事に結びつくという安心感によって支えられるシステムなのです。もちろん脱落していく人も少なくありませんが、決心すれば誰でもエントリー可能です。このようなシステムを日本でも導入することについて検討出来ると良いな、と思います。

第三に身体障害者や精神障害者のように生まれつき困難を抱えている人々に対する雇用の保証です。私が活動の一環として訪れた“Red Wrigglers Farm”は障害者と健常者が一緒になって農作物を育てている農園です。発達障害を抱えている人達とコミュニケーションを図ることは思っていたよりも難しく、時折理解することができなときもありました。多分、時間が必要なのだと思います。もっと彼らのことがわかればよい分担をしながら効率的な仕事の配分を決められそうです。障害を抱えているからというだけであまり社会で活躍することが出来ないのが実情の中、障害者への雇用を生み出しているだけでなく、きちんと「一緒に社会参加」している事実と自信を与え、私たちが障害者への理解を深めることに繋がる良いシステムだと思います。皆が共存できる社会を築くには、全ての人々に雇用されるチャンスを保証することが絶対に必要なだと思います。

私は一週間の社会奉仕活動を通して、差別や偏見は「知らない」ことから来るということに、改めて気づかされました。ホームレスシエルターやスープキッチン、障害を抱える人との農作業を通して私は彼らに対する“Psychological barrier”がとても低くなったと思います。

社会的弱者になる理由は人それぞれです。生まれつきの障害によるものもあれば、薬物中毒やアルコール中毒、犯罪歴や家庭崩壊による場合もあります。本来であればホームレスも障害者も誰もがそれぞれの子供時代を持っていて、もっと早く何かしらの支援や救済制度の対象となっていれば、居場所を失ったり社会参加出来ない状態に陥ったりしなくて済んだのかもしれない。せめて、今、そのような状態に陥ってしまった人たちに手を差し伸べられる社会のシステムを作っていけないと思えます。最低限の栄養のある食糧、社会参加をしたいという強い気持ちのある人々にはその明確なチャンス。そしてもちろんそれでも社会参加したい気持ちを持ってないままにいる人がいたとしたら、その人たちを見捨てない社会、一緒に抱えあいな

がら生きていく社会が必要です。

誰もが排除されることなく社会に参加する権利を保障されなければならないのです。

健康的な食事、基礎的な教育、そして雇用のチャンスの保証はとて“理想的”ではありませんが、私たちが目指すべき、目指す価値のある目標だと思います。